

実践講座

- VI. 愛知県 開発教育実践講座の記録
- VII. 岐阜県 開発教育実践講座の記録
- VIII. 三重県 開発教育実践講座の記録
- IX. 静岡県 開発教育実践講座の記録

VI. 愛知県開発教育実践講座の記録

愛知県において実施した開発教育実践講座の記録として、講座の開催記録、参加者のふりかえりシート、作成・配布した主要な資料、準備会の打合せの経過を示します。なお、主な「記録」の体裁としては、実践講座の企画から運営、記録まですべてにわたり、準備会が行ってきたことから、基本的に準備会が作成したものを尊重し、そのまま掲載しました。

1 愛知県実践講座の開催記録

(1) 講座の概要

◆ 日時・場所

- 日時：平成15年12月6日（土）13時～17時
- 場所：名古屋国際センター5F 第一会議室
- 参加者数：48人（講師・スタッフを含む）

◆ テーマ

「What's 国際理解教育？ 私にもできる、あなたにもできる」

◆ プログラム

★セッション1

- 1 講座全体の紹介
- 2 主催者挨拶
- 3 アクティビティ 何でもバスケット、名刺で自己紹介、世界がもし100人の村だったら

★セッション2

- 4 アクティビティ 世界と地域のつながりを考えよう
- 5 質疑応答・アンケート記入・関係者の紹介
- 6 閉会

(2) セッション1

13:15よりちょっと遅れて開始。

◆ 1 講座全体の紹介 司会：山口明彦さん

- 司会者：開始の挨拶。本日のワークショップの概要説明。

<進行用原稿より>

- 本日の実践講座は、大きく前半・後半の2種類のセッションに分け、それぞれアクティビティを交えながら『参加型』という形式のワークショップを体験して頂きます。途中、休憩をはさみ前半約60分、後半約110分を予定しています。その後、事務連絡の時間を入れて、終了時間は午後5時頃を

予定しています。

- さて、この参加型という言葉ですが、本日お集まり頂いた皆さんの中にも国際理解教育のイベントやワークショップに参加された時に耳にされたことがあるのではないかと、思います。
- 『参加型講座』とは、参加者が実際にアクティビティを体験することで問題や課題を実感すると同時に、解決すべき課題から距離を置いて評論するのではなく、当事者の一人として自分達が自主的に考える方法を学ぶことを言います。
- また、本日皆さんのお手伝いをする役割の者をファシリテーターと呼びます。ファシリテーターとは本来『後援者』という意味ですが、ここではワークショップで話し合う素材を用意して、それを基に参加者と一緒にテーマについて考え、より良い方向へ参加者の理解を進める役割のことを指します。
- 本日の講座に企画段階から参加し、ファシリテーターを務めるメンバーは全員がプロではありません。年齢も、立場も、経験も様々です。
- チラシでご案内しましたように、本日のファシリテーターは6月～9月にかけて合計6日間にわたって開催された『開発教育指導者研修』の参加者が本講座のファシリテーターを務めます。
- ですから、本講座に参加された方のどなたでもファシリテーターになることができる、ということが言えるわけです。どうですか、面白そうでしょう。
- さてもう一つ、『ワークショップ』という言葉もあります。これは、もともとは『作業場や小さな工場』を表す英語ですが、ここで言うワークショップとは、対等な立場で集まった参加者が同じテーマについて考え、理解し、認識を共有することで何かを作り出す『共同の作業場』という意味で使われます。
- 参加型、ファシリテーター、ワークショップというキーワードは今後皆さんが係わるイベントや講座に頻繁に出てきますので、ぜひ覚えておいてください。
- 本日の講座は、参加された皆さんに『単なる参加者』としてだけではなく、こうした講座やイベント、ワークショップを進行し、活性化させることで参加者の理解を手助けする『ファシリテーター』という視点からも国際理解教育や開発教育について考えて頂きたいという主旨を含んでいます。

◆ 2 主催者挨拶 興梠 康一郎（JICA中部業務課長）

- 開発教育指導者研修→修了生が企画→開発教育実践講座の説明。
- JICAが取り組む国際理解教育の説明。

◆ 3-1 アクティビティ 何でもバスケット（ファシリテーター：薫森英夫さん）

- 今日の参加者はどんな人がいるか？見つつ、体と目と耳を動かしてみよう。
- <質問> ① 名古屋国際センターに入るのが始めての人。動いてください。
- ② 海外へ行ったことがあるひと。動いてください。
- ③ 「世界がもし100人の村だったら」という本を知っている人。
- ④ 「100人の村」を読んだことがある人。
- 一つイスをぬいて、座れなかった人から出題。
- <質問> ① 朝ごはんがパンだった人。
- ② 英語が好きな人。
- ③ ここへ来るのに電車を使ってきた人。

④ 傘を持たずに来た人。

- ファシリテーターから→「何でもバスケット」で全員動く。
- JICAに関する何を何かしたことがある人(ホームページみたりJICA中部にいたり)。
- ファシリテーター：体を動かしつつ、どんな人が来ているかみるアクティビティでした。

◆ 3-2 アクティビティ 名刺で自己紹介 (ファシリテーター：大橋一智さん)

- 名刺で自己紹介。裏紙に書く。13:45 まで記入の時間。
 - ① 何をしている人ですか？
 - ② 行ってみたい国はどこですか？
 - ③ 今日の講座に期待すること。
 - ④ あなたのセールスポイントは？一番のものを一つ。
- 書いた名刺を持って、今日の参加者の知らない人と自己紹介しあう。できれば3人以上の人と。長く話してしまうことがあってもよいかも。13:57 まで。
- みな立ち上がって近くの人と自己紹介しあう、徐々に緊張がほぐれてきた様子？ 途中、自己紹介の相手がみつからず一人で困っている人がいた。
- 13:57 自己紹介終了。着席。
- ファシリテーター：自己紹介の相手が3人以下だった人、挙手…結構たくさんいる。→一人と結構長く話したんですね。4人の人と話された人、挙手…少し。5人以上の人と話した人、少し。

◆ 3-3 アクティビティ 他己紹介

- 5人の人と話した「うい」さんから、印象に残った人を皆に紹介。
- 「いっしーが印象にのこった。華麗な走り、すてきなマント」。
- さーじさんの印象に残った人はもりもりさんです。ひげが印象に残った。「森のことを授業するのでフィンランドに行きたい」とのこと。
- ファシリテーター：なんでもバスケットから、自己紹介、他己紹介と行いました。これがアイスブレイキング。緊張をほぐし、和やかにワークショップを。そのためになんでもバスケットと自己紹介ゲームをしました。14:05。

◆ 3-4 アクティビティ 世界がもしも100人の村だったら (ファシリテーター：市川恵さん)

- イメージを得るために動きをつけます。イスを後ろにどけて下さい。部屋の四隅に分かれてクイズの答えを示す。
 - 1) 世界に100人ならアジアのひとは何人？
 - 2) 子どもは何人？(14歳以下) 30人 いずれ2050年には20人に減る。
 - 3) 英語が母語の人は何人？ 「なぜ17人？」-「100人にあったら17人の人がしゃべってた！」
答えは9人。4人はアラビア語、6人はスペイン語、17人は中国語。
 - 4) コンピューターを持っている人は何人？
「自分が持つのも大変なので世界ではもっと大変でしょう」正解は2人。
 - 5) 核を保有している国に住んでいる人の数は何人？
答えは10人。中国、インド、パキスタン含まれる。
 - 6) エネルギーをたくさん消費している国にすんでいる人は何人？ 答えは20人。

7) ここでワイングラスの図 (P11・写真:百人の村/世界の富と人口について参照)。富の分配。

1991年につくられたが、今でも変わっていない。

8) 世界が1,000人だったら医者は何人でしょう？

「200人にひとりが多いかな？満員電車で一人って計算。答えは1人

- ファシリテーター：日本以外の国での状況をしていただくためのゲーム。世界ではどうゆう分布があるのか知っていただければいい。
- ここでみなさんにプレゼント。100人の村の資料を渡す。
- これからグループ分け。8グループに。名前カードに番号が書いてある。
- 4人ずつで机をだす。人数が少なければあとで人が入ります。
- 懇親会の案内。休憩：14：40まで。

(3) セッション2

◆ 4 アクティビティ 世界と地域のつながりを考えよう

ファシリテーター：賀島美恵子さん

- 前半の「100人の村WS」で印象に残っていることは何かありますか？
→パソコンを持っている人が2人。お医者さんが少ないこと。
- 地球にはいろいろな問題や課題がある。
- 例えば、「100人の村WS」に出てきた核の保有→問題では？
- 地球にはいろいろな問題があるが、地域にも同じように問題がある。同時に考える必要あり。

ポストイットに書き出す (作業・個人) (8分)

- ① 解決していかななくてはならない 地球の課題 (→部屋の左半分のグループ)
- ② 解決していかななくてはならない 地域の課題 (→部屋の右半分のグループ)

グルーピング (作業・グループ)

- ・ 同じもの→重ねて貼る。似ているもの→近くに貼る。
- ・ 仲間分けをして、タイトルをつける。

グループ発表 ファシリテーター：江口由希子さん

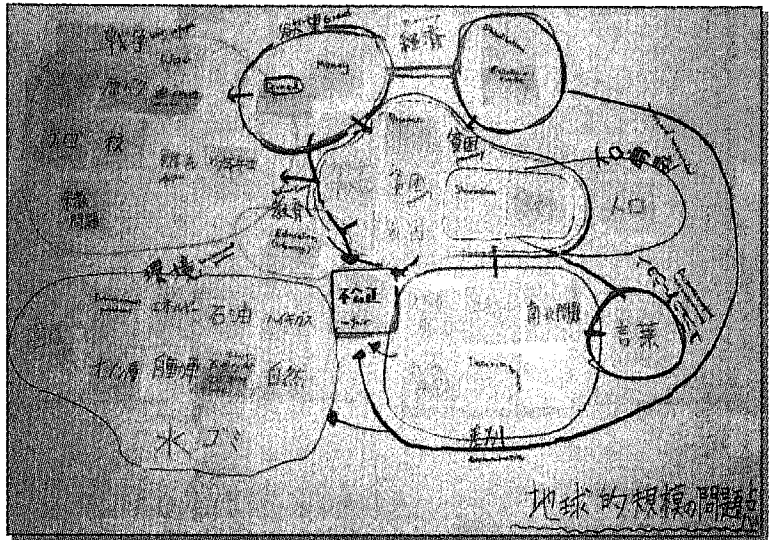
どんなカテゴリーをつけたのか、過程と結果を盛り込んで発表してください。

<地球グループ1>

- 複雑にからみあっていて線がたくさんになって困ってしまった。
- 経済問題がいろいろな問題にからむ→ベースになる問題。
- 戦争、テロ、環境、医療技術、エイズ、倫理問題、教育問題など。
- でも、お金ですべてを解決できるわけではない。
- 地球全体がもっているものは変わらない。みんなでどうやって分け合っていくかが大切。
- 国際的に話し合っってコミュニケーションをとる。エゴもどうしてもでてくるが、各国がいかに協調して、お互いに問題解決を図るかが大切。

<地球グループ2>

- 戦争、環境、教育、貧困、経済、差別、言葉など
- すべての問題が複雑にからみあっている。
- オーストラリア・セバさん → 「欲望」「貪欲さ」が問題、戦争や経済格差を生んでいる。



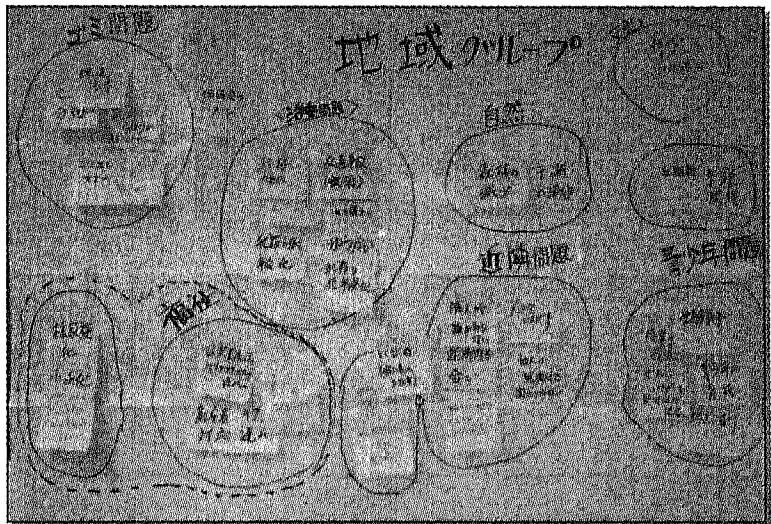
▲ 地球の課題の整理結果例 (横造紙)

<地域グループ1>

- コミュニケーションが中心、他の問題とかさなる。
- 緑が少ない、自転車の乗り捨て、違法駐車、ゴミの分別、マナーの低下など。
- 環境保全 (自動車の排気ガス)、高齢社会 (老人にどのようなケアをしていくか)。
- 少子化 (子どもが少ない、どのように対策をするか)。
- 子どもの登校拒否、教育問題、喫煙の低年齢化。
- 景気の低迷、経済の問題、経済の不安定 → 治安が悪くなる (どろぼう、犯罪増加)。
- 「命」の大切さを考えていく場をつくるのが大切。

<地域グループ2>

- 文化 → 伝統文化がなくなっている
- 近隣関係 → 人付き合いがへっている。
- 青少年問題 → 若い人、やりがい、いきがいが少ない。
- 福祉、自然、ゴミ問題、その他社会問題 (治安)。
- それぞれが感じる課題が違ってたくさん意見が出た。
- 世代の違いから生じる価値観のずれを感じた。



▲ 地域の課題の整理結果例 (横造紙)

グループ変え

- ① グループの中でじゃんけん。二人勝った人を外に出す。地球グループと地域グループ、隣同士でトレード
- ② グループごとななめ向かいの机へ移動（交代）

ポスターの真ん中に線を書きだす（作業・グループ） ファシリテーター：林泰宏さん

- ・地球の課題と地域の課題の 「共通点」（左側） / 「相違点」（右側）
- ・大きなポストイット（3色）、赤いシールを貼った台紙、ポスターの裏紙を配布。

グループ発表

- ・8個のグループが発表、前のグループと重なることは省いて発表してください。

<共通点>

- ゴミ問題、環境問題
- 命の大切さ（根本）
- コミュニケーションが大切
- 人口問題
- 雇用問題
- 衛生に関する問題

<相違点>

- 戦争、人種差別、食糧問題→地球規模では考えるが、地域レベルではあまり。
- 地球規模では環境問題はオゾン層の破壊。
- 地球規模では戦争、地域では治安の悪化→程度が違う。
- 地球規模では貧困がすべての問題の根底にある、日本では豊かさにより不登校などの問題。
- 地球規模では水が自由にならない、日本ではなる。
- 地球規模では対立の関係、地域では孤立の関係→世界は戦争、敵対心、地域では人と人との関係が希薄。
- 地球にはあげられなかったが、地域では高齢化の問題。
- 環境問題、地域では人が見えてくる、地球では人が見えてこない。かかわっている人が違うのでは？
- ～問題、地域では個人対個人、世界では集団対集団。
- 地球では宗教問題あり、地域にはなし。
- 地球と地域、質が違う。
- 貧困、戦争、差別、宗教、自殺。

<その他のコメント>

- コミュニケーションが問題を解決する
- 問題は共通していても内容が違っている。
- 視点の違いから相違点が出ている。
- 自分も地域の住民であると同時に地球の住民。ただグローバルな見方をしていないだけ。

- ファシリテーター：いろいろな問題がねっこの部分でつながっている。地域の問題と地球の問題はつながりがある。

私はこの問題が大事だと思うものにシールを貼る。(2つまで) 16:23

感想・印象

- ◎ 個人だと孤立、世界では対立、世界的なグローバルな視点をもっていないのかな。
- ◎ 世界と個人との関係、関係ないじゃん、と思っていた。
- ◎ みんな同じ人間。幸せ感じたい。そこにどのようにアクセスしていくかが大事。
- ◎ 相違点の対立と孤立。日本語では正反対。対立の相反するものは、孤立ではない。
- ◎ 対立と孤立どのような意図？地域では人間関係が希薄という意味。
- ◎ 対立はコミュニケーションをとろうとしている状態。孤立は違うので、まだ対立のほうが増し。
- ◎ 世界の紛争の人間関係が崩れたら、対立。日本の現象をみると、老人問題など人間関係が崩れたら、孤立。
- ◎ ファシリテーターコメント：色々な問題をみんな抱えている。本日は色々な議論が出来たと思う。その議論の中から色々な解決の糸口が見つかるのかな。
- ◎ 限定できない。簡単に解決できない。
- ◎ 意識を共有化し、皆で考え取り組むことが重要では。

グループに戻り、個人個人の問題について考える (5分)

- ・黄色のカード：色々な問題を解決するために自分が今していること。
 - ・赤色のカード：色々な問題を解決するために自分が明日の自分がしたいこと。
 - ・緑色のカード：色々な問題を解決するために自分が10年後にしたいこと。
- カード(付箋)に書き出す。

読み上げながらグループでポスターの裏紙に貼る (3分)

ギャラリー方式で他のグループの結果を見る (3分)

◆ 5 質疑応答・アンケート配布・アナウンス

◆ 6 閉会

2

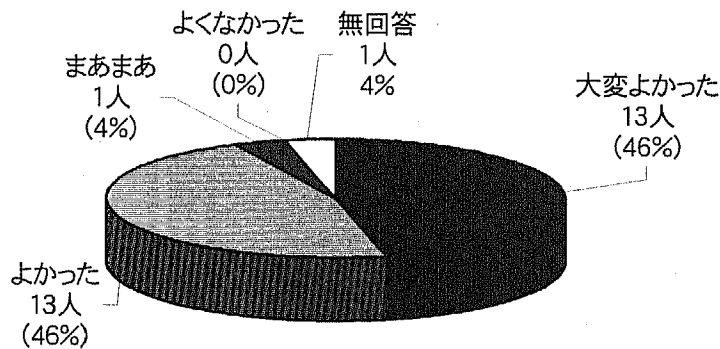
愛知県実践講座のふりかえりシート

講座の最後に参加者に書いてもらった「ふりかえりシート」結果を示します。ふりかえった項目は次のとおりです。

- 1 本日のイベントはよかったか？
- 2 どのプログラムがよかったですか？（いくつでも可）
- 3 このイベントをどのようにして知りましたか？（いくつでも可）
- 4 今後どのような講座やイベントを期待しますか？
- 5 その他ご意見があればお願いします

(1) イベントへの評価

「大変よかった」と「よかった」を合わせると、92%の人が良い評価をしています。各評価区分の具体的な理由は以下のとおりです。



◆ 「大変よかった」とした人の理由

- もっと深くとりくめて、話し合えたらよかった。自分の普段の問題に対する意識の低さと解決に向けて具体的にとりくめていない姿が改めてわかった。
- ちょっと仲間ができたみたいでうれしいです。
- 国際理解教育のワークショップに来られる方々は、素晴らしい方々ばかりで有意義な話し合いができてよかったです。
- みなさんの意見がすばらしく、大変勉強になりました。
- ディスカッションの際、もっとゆっくり話せる時間が欲しかった。しかし、発見はとても大きいものがあった。
- 国際理解を漠然と考えていましたが、色々な人の意見をきくことで身近に感じました。
- ファシリテーターの方々、参加者の方々に恵まれ素晴らしい時間を過ごせました。でも最後はちょっと疲れてしまいました。
- 自分自身は何か目的とか意図もあまり考えず、遊びにはってしまった（特にアイスブレイキング）。ですから、楽しみました。

◆ 「よかった」とした人の理由

- ファシリテーターの難しさが伝わり、とても勉強になりました。

- 何かこれで終わるのがおしかった。
- ほどよい充実した疲れが残りました。
- 学校現場で同じことはできないが、手法やヒントとしては意義があった。
- まず参加してよかった。
- 内容が盛りだくさんで、かけあしだったので、項目が少なくてもいいので、もう少しつきつめて話をしたかった。
- もう少しテンポが早くても良かったかなあと思った。
- 初めての参加であったのでよかった。
- 抽象的ではあった気もしますがよかったです
- 討論する時間が少なかった。具体的にとりくめていない姿が改めてわかった。

(2) 各プログラムへの評価

「どのプログラムがよかったか？」への回答及び具体的なコメントは次のとおりです。

- ・何でもバスケット 13人
- ・名刺で自己紹介 12人
- ・世界がもし100人の村だったら 21人
- ・世界と地域のつながりを考えよう 23人
- ・関係者紹介 3人

◆ 具体的なコメント

- 100人の村は読んでいるのですが、あらためて質問されると忘れていたり、関心がうすれているのだと思った。
- 参加した方々、ひとりひとりもっとお話しをしたくなりました。
- 本を持っているのに忘れていたことを思い出せました。地域と世界の関わりについてもう少し考えてみようと思います。
- いろんな事を考えるきっかけになりました。いろんな所で応用できるかも・・・。
- 多くの方とコミュニケーションをし、自分が大切に感じていること、さらに発展させたいことが明確になりました。ありがとう。
- 地球・地域・個人の関わり・問題を時間をかけて考えることができよかったです。
- 時間が短く、すぐ終わってしまったのが残念でした。
- 恩師とこんな所で出会うとは思わなかった。高校時代では学べなかったことを多く学んだ。
- もっと相手と話す時間を持ちたかった。
- 自分を見つめ直すよい機会になった。
- もう少しゆっくり討論する時間が欲しかった。
- 100人の村では数字を量的に表していただけると分かりやすかった。
- 学校教育で使えそう。
- 実際にこのあと参加者が持ち帰って実践する場合のポイント等を加えてもよかったのではないのでしょうか？
- “地域”の範囲が“自分で住んでいる所”か“日本”か迷いました。
- 関係者紹介は何か分かりませんでした。
- すべてが初めてだったのでとても楽しかったです。
- 内容が多すぎてあわただしかった。
- 「世界と地域のつながりを考えよう」はまとめるのが難しいなと思いました。
- バスケットは、ただのフルーツバスケット状態であそんでしまった。名刺で自己紹介は単発ではなく連

鎖してった方がよいと思った。100人の村は、「へえ〜」という感じでおもしろかった。もっとそれに関する（数字の）インパクトがあってもよかった気もした。世界と地域のつながりは最後のまとめが難しく時間がたらなかった。

(3) イベントを知ったきっかけ

「このイベントをどのようにして知ったか？」への回答は次のとおりです。

- ・ JICAより案内送付 13人
- ・ 友人・知人 7人
- ・ JICAホームページ 2人
- ・ その他 8人（メール1、JICAメルマガ1、名古屋国際センター情報カウンター1、愛・地球博ボランティアセンター1、開発教育指導者研修つながり1、JICAのお友達より1、午前中の講座の案内で1）

(4) 講座・イベントへの期待

「今後どのような講座やイベントを期待するか？」への具体的回答は次のとおりです。

◆ 具体的な回答

- ・ 仕事の教え方、発表の仕方。
- ・ もう少し長時間の話し合いの時間に重点を置いたもの。
- ・ 時間があれば参加したいと思います。
- ・ 継続的にこのようなイベントを開催して欲しいと思います。
- ・ 小中学生が国際理解を深めることができるような取り組み。
- ・ 具体的に行われている国際理解の学校での授業について
- ・ 長期的な同じような講座やイベント。
- ・ とにかく様々な立場の人と知り合える機会であればうれしい。
- ・ 具体的なワークショップやアクティビティを教えて欲しい！
- ・ 全くの初心者なので、今日のような講座にどんどん出席して吸収したい。
- ・ 具体的方法論のセミナーなど。
- ・ テーマを変えて、同じような会があればまた参加したいと考えています。
- ・ 国際理解について。ワークショップ。
- ・ 実際の問題解決方法を教えていただきたい。
- ・ 開発教育のイベントの継続、仲間づくり。
- ・ ワorkshopにとっても興味があるので、それだけを扱った講座も面白いなあと思いました。

(5) その他の意見

「その他ご意見があればお願いします」への具体的回答は次のとおりです（お礼等は除く）。

◆ 具体的な回答

- ・ 今日、この場で話して出会った人々とのつながりに感謝！今日からまた輪が広がりました。
- ・ 語学研修がありましたら、お知らせ下さい。
- ・ 国際理解教育は21世紀を生きる私達にとってとても重要な事だと思います。
- ・ 開発教育に関わるような活動を行っていきたいと思っております。
- ・ 時間に追われることだけが気が焦ったが、全体的には久しぶりに一緒に考える機会と人々に出会えた。

- 実際に（小中学校等での）授業の現場を見学する機会があれば・・・と思う。
- 開発教育の今後を話し合う討論会かなあ。
- 私のモットー＝チャンス・チャレンジ・チェンジの今日はチェンジだったと思います。明日からかわれる。疲れよりエネルギーを充電しました。
- 問題解決の手法を伝えようとしているのか、世界の問題を認識させることが目的なのか、よく理解出来なかった。「なぜこれをやるのか」をまず説明すべきであろう。

3 愛知県実践講座準備会の打合せ経過

愛知県実践講座準備会は、次のとおり打合せし、実践講座の企画立案、運営準備などをしてきました。

回	日時・場所	出席者	打合せ項目
1	10月7日(火) 18時30分～21時 JICA中部第5会議室	藤原、秋田、市川、林、 山口、薫森、戸嶋、大橋、 磯貝、渡邊、江口、賀島	①講座ねらいの共有 ②ねらいを受けて対象を検討 ③会の持ち方の案
2	10月22日(水) 18時30分～21時 JICA中部第5会議室	藤原、市川、林、山口、 岩城、薫森、戸嶋、濱田、 大橋、磯貝、後藤、江口、 賀島	①ねらいをうけた当日のプログラムの流れについての確認 ③プログラムに対する質疑・付け足し ④プログラム作りの宿題発表、検討
3	10月30日(木) 18時30分～21時30分 JICA中部講堂	藤原、大橋、薫森、濱田、 山口、磯貝、江口、後藤、 賀島、渡邊	プログラムの流れ、中身を具体的に決める
4	11月5日(水) 18時30分～22時30分 JICA中部第5会議室	藤原、市川、林、薫森、 戸嶋、濱田、山口、大橋、 磯貝、江口、賀島、後藤、 渡邊	アクティビティの中身を具体的に決める
5	11月12日(水) 18時30分～22時 JICA中部第5会議室	藤原、市川、林、薫森、 山口、磯貝、江口、賀島、 後藤	アクティビティの中身を具体的に決める
6	11月18日(火) 18時30分～22時 JICA中部第5会議室	藤原、戸嶋、濱田、磯貝、 江口、賀島、後藤、渡邊	後半部のファシリテーターの打合せ
7	11月19日(水) 18時30分～21時30分 JICA中部第5会議室	藤原、市川、薫森、山口、 磯貝、大橋、後藤、渡邊	司会進行等について 前半部のファシリテーターの打合せ
8	11月26日(水) 18時30分～22時 JICA中部第5会議室	大橋、薫森、山口、藤原、 磯貝	タイムスケジュールの確認 前半部のファシリテーターの打合せ
9	12月4日(木) 18時30分～21時30分 JICA中部第5会議室	藤原、市川、林、薫森、 戸嶋、濱田、磯貝、江口、 賀島、後藤、渡邊	最終打合せ、通しリハーサル
10	12月19日(水) 18時30分～20時30分 JICA中部第5会議室	藤原、薫森、大橋、磯貝、 賀島、渡邊	ふりかえり会 企画段階、準備段階、当日の各感想 今後に向けて

愛知県実践講座に向けて作成した次の主な資料を添付します。

◆ 資料名

- 資料1：前半アクティビティ出典 [1ページ]
- 資料2：質問選択肢（解答）・出典 [1ページ]
- 資料3：募集チラシ [1ページ]
- 資料4：当日進行表 [1ページ]

資料1

前半アクティビティ出典

参考文献

世界がもし100人の村だったら 原題「If the world were a village of 100 people」

(訳：池田香代子 著：C・ダグラス・ラミス 出版：マガジンハウス、東京、2001)

開発教育教材シリーズ6 ワークショップ版世界がもし100人の村だったら

(著、出版 開発教育協会 東京、2003)

世界がわかるデータブック 世界国勢図会 第14版 2003/2004

((財) 矢野恒太記念会 編集、発行 東京、2003)

世界がもし100人の村だったら 2 100人の村の現状報告

(著：池田 香代子 出版：マガジンハウス、東京、2002)

世界がもし1000人の村だったら 原題「If the world were a village of 1000 people」

(著：ドネラ・メドウズ Donella H. Meadows 出典：『世界市民』原題「The Global Citizens」 Island Press、1991)

地球がもし100cmの球だったら

(著：永井 智哉 出版：世界文化社、東京、2002)

日本が100人の村だったら—今の日本昔の日本

(著：水野 かおる 出版：データハウス、東京、2002)

本日の質問、選択肢、答え、出典

1 アジアに住んでいる人は100人中何人でしょうか(61)

① 1 ② 12 ③ 13 ④ 61

アジア：37億6900万人 アフリカ：8億3200万人

ヨーロッパ：7億2500万人 アメリカ：8億5500万人

オセアニア：3100万人 世界計：62億1100万人 (2002年)

(世界国勢図会(前述) p. 57に地域別人口が掲載)

2 子供は100人中何人でしょうか(30人)

① 10 ② 20 ③ 30 ④ 40

* ユニセフの定義によると、子どもとは、満14歳以下

(世界国勢図会(前述) p. 69~70 に国別世代別人口が掲載)

3 英語が母語の人は100人中何人でしょうか(9)

① 4 ② 6 ③ 9 ④ 17

4 マイカーを持っている人は100人中何人でしょうか(14人)

① 1 ② 7 ③ 14 ④ 21

(世界国勢図会(前述) p. 445~447 に国別自動車保有台数が掲載)

5 コンピュータを持っている人は100人中何人でしょうか(2)

① 2 ② 10 ③ 20 ④ 50

(世界国勢図会(前述) p. 457 コンピュータ保有と直接つながらないが、インターネット利用状況が掲載)

6 核を保有している国に住んでいる人は100人中何人でしょうか(10)

① 1 ② 5 ③ 10 ④ 50

(世界国勢図会(前述) p. 504 に主な核保有国の戦略核状況が掲載)

7 エネルギーをたくさん消費する、俗に言われる(物質的にを入れた方がよくないか?)豊かな国に住んでいるのは100人中何人でしょうか(20)

① 20 ② 30 ③ 40 ④ 50

(ではここで、「世界がもし1000人の村だったら」という本もありますので、そちらからも1問出題してみましよう。)

(世界国勢図会(前述) p. 176~208 に主なエネルギーの生産・利用状況が掲載)

8 お医者さんは1000人中何人でしょうか(1)

① 1 ② 5 ③ 10 ④ 50

(世界国勢図会(前述) p. 470 に人口千人あたりの医師数・病床数が掲載)

平成15年度愛知県開発教育実践講座

私にもできる、
あなたにもできる

What's 国際理解教育?

総合的な学習の時間が始まり、国際理解教育に関心はあるけれど、どのように始めればいいのか迷っている先生方。世界に興味をお持ちで、これから関わっていきたくて考えておみえの方。家庭や地域でできることから取り組みたいと思っている方。今話題の『国際理解教育』って、いったいなんだろう？ワークショップを体験しながら、みんなでいっしょに考えてみませんか。

この講座は、6～9月にかけて1泊2日で3回開催された開発教育指導者研修の参加者がファシリテーターを担当します。



本講座企画者たちが指導者研修でワークショップを体験

プログラム(予定):

13:00～ 受付

13:15～ 主催者挨拶

13:25～ スタート

- ・ お互いを知り合おう
- ・ 「世界がもし100人の村だったら」を使って世界の実情を知ろう
- ・ 世界と地域のつながりを考えよう
- ・ 自分のできることを考えよう

国際理解教育が何を扱い、何を目的としている教育なのか、参加型ワークショップを通して、体験してみましょう。

16:30～ 意見交換・振り返り

*ワークショップ:もともと作業場を表す英語。参加者自身が自らの知識や体験をもって積極的に関わるスタイル。

*ファシリテーター:ワークショップを進行する人。話し合いの素材になるものを用意し、時間管理を行いながら全体を進行する。

日時:2003年12月6日(土)13時～17時<予定>

場所:名古屋国際センター(地下鉄桜通線:国際センター駅下車すぐ)

対象:教員、学生、NGO/NPO、青年海外協力隊 OG・OB、国際理解教育に関心のある方<定員40名><無料>

申込み:裏面申込用紙にご記入の上、FAXまたは郵送にてお申込みください。

メールでも可。参加者には12月2日頃に詳細を連絡します。

主催:独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター(JICA 中部)

後援(予定):愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

(財)名古屋国際センター、(特)NIED



平成15年度 開発教育実践講座 進行表 (2008年12月6日 名古屋国際センター)

予定時刻	司会進行		内容	担当	所要時間	確認事項
	アナウンスの要旨	内容の詳細				
11:00		集合(5F第一会議室)、受付準備・配布物確認	藤原、後藤 (& 渡邊)	40分	看板、張り紙、机・10、イス・45、ホワイトボード・2、マイク・4、ビデオカメラ1、デジタルカメラ2、パソコン1、レコーダー1、布(セロハン)テープ2、シール、画鋏、参加者リスト、配布物40セット(封筒もしくはクリップファイル)、チャック用のペン	
11:40		講師・スタッフ集合(5F 第一会議室内講師控え室)	磯貝、市川、大橋、賀島、薫森、戸嶋、林、濱田、藤原、山口、渡邊、後藤、池田、古田、秋田	60分	スタッフリスト・お弁当確認。伝え方講座に参加しているメンバーは終わりの次第、合流。	
12:40		フアン打合せ(講師控え室) 受付・機材等確認	市川、大橋、賀島、薫森、戸嶋、林、山口、渡邊、後藤、池田、古田、秋田	20分	各自内容確認	
13:00	* 開始準備最終打合せ(開始予定時間等)	受付開始	渡邊、後藤、池田、古田、秋田	15分	ホワイトボード・2、マイク・4、ビデオカメラ1、デジタルカメラ2、パソコン1、レコーダー1、延長コード1、ストップウォッチ2、バレット	
13:15	講座開始のアナウンス	配布資料・アンケートの説明 * なぜ「参加型」なのか* WSとはFとは講座のプログラムの説明	山口	5分	* 参加人数の把握 * アクティビティの準備 * 進行時間の確認 * 配布資料の準備 * アンケートの準備 * 全工程のタイムキーパー: 濱田 * 終了のバレットは担当毎のフアンレコーダーで	
13:20	主催者紹介	主催者挨拶 CBIC業務課長・興相康一郎	山口・興相	5分	* 最初はイスのみ。丸い円形。	
13:25	フアンレコーダー紹介	アクティビティ①何でもバスケット	薫森	10分	* 次のアクティビティのために、机配置確認	
13:35		アクティビティ②名刺で自己紹介	大橋	30分	* 参加者分の裏紙・ペン40本	
14:05		アクティビティ③100人の村	市川	30分	ワインの図(不公正な社会の図)確認。休憩前に後半部分の机、イス配置アナウンス。	
14:35	休憩(時間調整)	前半担当フアンレコーダーが休憩時間、再開時間を決定	渡邊、後藤、池田、古田、秋田	10分	飲み物準備2リットル4本・コップ60個、懇親会出欠確認の紙を張り出す	
14:45	フアンレコーダー紹介	アクティビティ④・地球の課題・地域の課題・私の課題・全体の共有	賀島・江口・戸嶋・林	125分	* 机配置確認、模造紙8枚(予備4枚ぐらい)、裏紙適宜	
16:50	連絡事項 関係者の紹介	* アンケートのリマインド * アンケートの回収 関係諸団体の紹介	山口 磯貝	10分	アンケート配布済み JICA中部、NIC・名古屋国際センター、ICAN・アジア日本相互交流センター、AIA・愛知県国際交流協会、派遣専門家東海OB会、NIED・国際理解教育センター	
17:00	終了のアナウンス	* 前半:写真撮影・ビデオ 池田、古田、秋田 書記:後藤、渡邊 * 後半:写真撮影・ビデオ 後藤、渡邊、書記:池田、古田、秋田 * 後半部分のワークショップは8グループ。人数調整の関係上、記録・書記などのメンバーがWSに入ることもあります。適宜対応。				
					* 前半のアクティビティに、後半のフアンが入ります。	

